

我孫子RCクラブ協議会

日時：平成22年8月3日
場所：ホテルマークワン我孫子



開会の言葉 ガバナー挨拶 ガバナー補佐挨拶	司会：我孫子RC幹事 我孫子RC会長 2790地区ガバナー 第10分区ガバナー補佐	小池喜之 塩毛康弉 織田吉郎 飯合幸夫
活動計画発表 クラブ管理運営委員会 職業奉仕委員会 社会奉仕委員会 国際奉仕委員会	クラブ運営委員長 職業奉仕委員長 社会奉仕委員長 国際奉仕委員長	志賀裕司 上村晃一 鈴木公三 星野 栄
全体意見交換		
ガバナーによる講評	2790地区ガバナー	織田吉郎
閉会の言葉	我孫子RC会長	塩毛康弉

会長挨拶

塩毛会長



今まで沼南RCさんと合同で行っていたのですが、今年は単独開催になります。
クラブ活動計画書で織田ガバナーの年齢が73歳になっているのですが、本当は64歳です。お詫びさせていただくと同時に訂正させていただきます。
実のあるクラブ協議会にしたいと思っております。

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2790地区ガバナー 織田吉郎様



お忙しい中クラブ協議会を開いていただきまして、ありがとうございます。
龍馬がお姉さんに向けた手紙に「日本を今一度洗濯いたし申し候」と書いたのですが、私は2年半前位から「ロータリーを今一度洗濯いたし申し候」と言わせていただいております。今日のクラブ協議会が「やってよかったな」という感じを持ってお帰りいただけますようお願いいたします。

ガバナー補佐挨拶

第10分区ガバナー補佐 飯合幸夫様

今日はお暑い中お残りいただきまして、ありがとうございます。
「エンジョイ・ロータリー」が私のモットーです。ゆっくり勉強させていただきたいと思います。
よろしく願いいたします。

クラブ管理運営委員会

志賀クラブ管理運営委員長より計画発表（活動計画書参照）

織田ガバナーによる問題点の抽出と意見交換

クラブ管理運営委員会が一番大事な事は、例会を豊かなものにして行く事だろうと思います。

私が23年前、銚子クラブに入会した当日に、先輩に「ロータリーで一番大事なものは平等ということ。あなたは若いけれど、年配の方に遠慮する必要はありません」と言われました。例会に入るときは、肩書き、資産、学歴、ロータリー歴、年齢等の世俗の論理をまとわず入る事が大事なのだと思います。この均一的平等の精神世界の成熟度が高いクラブは、先輩後輩の溝がなく、暖かい感じがして居心地がいいです。例会に出て、自分と違う人生を生きている人からヒントをもらって、自分を磨いて行く事が原則だと思います。

志賀委員長の書かれている通り、当地区から国際ロータリーのリーダーを出していただきたいと思います。

職業奉仕委員会

上村晃一職業奉仕委員長より計画発表

職業奉仕が今まで軽視されてきましたが、今日は織田ガバナーが同じような事を言っておられるので、心強く感じております。

職業奉仕とは何なのか。たとえば私は長年建築関係で仕事をしておりますが、違反建築にしても法律が変わりますと違反でなくなります。我々は、日常業務の中で職業倫理というものについて具体的に勉強していけたらと思います。お互い、悩みも含めた話をざっくばらんにできたらと思います。

織田ガバナーによる問題点の抽出と意見交換

建築の世界で言えば、昔は棟梁から弟子は職人としての技術と生き方を学びました。1960年代以降、高度成長の中でそういう世界が崩れてきました。仕事は金を稼ぐ為の手段で、できることなら働かないのが一番だという方向になってきてしまっていると思うのですが、それを私たちは変えて行かなければならないと思います。

山本周五郎の「柳橋物語」という本の中に私の好きな一文があります。「本当によい仕事をする人間はいるんだ。いつの世にもどこかにそういう人間がいて、見えない所で世の中のくさびになっている」「仕事」という言葉を「生き方」に変えてもよいと思います。私たちは職業倫理を高めて、少しでも住み良い世の中を作って行こうとしているのに、今の社会は何なんだという事になってしまいます。が、ロータリアンがいたから、まだこういう状態で止まっているんだと考えてよいと思います。

社会奉仕委員会

鈴木社会奉仕委員長より計画発表

第4回目になるレンゲまつりに対し、疑問視される方もいらっしゃいましたが、親と子が自然の中で手作りの凧を揚げ、凧の会の方々の奉仕、ロータリアンの作った豚汁を食べることは喜びであり、今年も続けたいと思っております。

織田ガバナーの年度最初の話に共感することが多く、塩毛会長に思わず「織田ガバナーと一緒に仕事ができるって最高ですね」と話しました。

「環境」を今年の奉仕の柱にしたいという織田ガバナーの考えに共感しております。「人」の環境が今、お粗末といえますか、基準にならない環境が存在していると思います。私は幼児教育をしておりますが、さまよっている保護者、大人が多くなっています。そういう親に育てられた子どもは更にさまよいます。

それぞれの業界の中でリーダーたるロータリアンが、生きるモデルになれるかどうかが問われていると思います。幸せの多様な基準を、今の若者達に伝えられるようなロータリアンになれるように、皆さんと心を合わせながらやって行けたらと思います。

織田ガバナーによる問題点の抽出と意見交換

鈴木社会奉仕委員長の活動計画書を読ませていただいて、どんな方なのか今日楽しみにして参りました。レンゲまつりの所など情緒力あふれる文章で、私たちの計画書に何が足りないのかズバリ感じさせられ、素晴らしいと思いました。

おっしゃるように今、生きる基準を持たない、さまよう大人達に育てられた子ども達が今後どうなっていくのか本当に心配です。昨今の子ども達の目には生気がなく、学生達は情緒力がありません。「情緒力」というのは、ものすごく大きなキーワードだと思っています。これが衰え、他人の不幸を感じ取る力がどんどん劣化して来ている社会を感じます。そういう子ども達や青年を作っているのは私たち自身じゃないかと思うと、何とかして行かなければならないととても感じます。

ブータンという小さな国は、GDP（国民総生産）は世界で最も低いのですが、国王が仏教の考えに基づき、GDH（国民総幸福）は世界一になろうと言っています。非常に貧しいですが、子ども達の目は輝いており、まっすぐ育っているのがよくわかります。国際奉仕の方に入ってしまうのですが、物を中心に考えるのはやめてくださいと話しています。将来が心配なのは、物が欠乏しているブータンではなく、日本であろうと私は思っています。

次代を背負って行く若者に対して何か着実なことをやって行かなければならないと思います。レンゲまつりは、身の丈に合った小さな活動かも知れませんが、長い目で見ると大変大きな活動になると思います。

国際奉仕委員会

星野国際奉仕委員長より計画発表

ほとんどの国でなくなっているポリオですが、我孫子RCはポリオ撲滅のために努力したいと思いますので、皆様に協力していただきたいと思います。

青少年交換については、地域の若者達を育て外国に行かせて勉強させてあげたいと思います。

WCSについては、我孫子RCは以前から単独でいくつかの国の支援をして参りました。今年是我孫子RC 45周年です。スリランカのクラブの方が井上先生を訪ねて来られます。もし学校か何かを作りたいというような話があれば、協力して行きたいと思います。できればマッチング・グラントを利用出来たらと思います。

姉妹クラブについては、疎遠になって来ていますが、少しでも近づき継続していきたいと考えております。

財団の寄付100ドルについては、今年度もご協力をお願いいたします。

突然の質問ですが、2790地区で千葉国体を応援するバッジを作るという事で、一人500円出して下さいというのは腑に落ちません。ご説明お願い致します。

織田ガバナーによる問題点の抽出と意見交換

千葉国体のバッジについては、ごもっともだと思います。広報委員会から各クラブ1万5千円集めさせてほしいという事だったのですが、あくまでも自主的に協力して下さる方だけに500円という限定で集めるという事であればと了解しました。昨年度の活動が今年度に流れて来しまい、決済は今年度になってしまいました。星野さんのストレスは大変よくわかります。

ポリオプラスの貢献については、ありがとうございます。

インドに行くたびに、ポリオの子どもに出会い、這いつくばりながら「バクシーシ（お金をちょうだい）」と寄ってきます。それを気持ち悪いと思うと自分自身を反省すると同時に、出来る事はやって行かなければならないと思います。

「ロータリーは奉仕する団体ではない。奉仕する人の団体である」と言ったのは米山梅吉さんです。とても重要な事だと思います。いいクラブというのは、クラブを構成する一人一人がそれぞれの奉仕の切り口を持っていて、祭りの役員、商工会議所での役割、町内会での役割等々、いろんなシーンがあると思います。

ロータリーの奉仕というものは、人を育てる事だろうと思います。ロータリーは心を開発する、人の内なる力を強くする、そういうことがロータリーの役割であると思います。

三姉妹クラブとの交流が疎遠になっているという事ですが、原則としては、深追いせず、待っていればいいのではと思います。昨今の状況は、日本だけでなく、アメリカのクラブは大変苦しい状況です。この一年間で9千5百人が退会しています。生き残りをかけた戦いを必死にしています。メッセージを出して、メッセージが戻って来なかったら、そっとしておいてあげる。じっと待っていればよろしいのではないかと私は思います。

今年の地区のWCSの展開は止めてもらっています。一度完全にストップし、これまでかかった費用、効果を半年間しっかり検証し、これからどうするか考えることにしました。地区のWCSは独自で動くべきではないという考えの元に、大変嫌われながら今、WCSの展開を考えて行きたいと思い動いています。WCSというのは本来全てマッチング・グラント体制で行くべきだと思います。

WCSのポリオ対策の次は水の問題になると思います。ポリオに一人3千円だったのが、水に3千円になると思いますが、それに対して私たちはどう構えるか理事会で徹底的に議論していただきたいと思います。

全体意見交換



発表者 白石会員

我孫子RCに入って1年になりますが、ロータリー歴は4クラブ、6年になります。各クラブ共会員増強が大きな課題になっています。個人的には量より質かなという考えはありますが、30代、40代の方の会員増強をどう進めればよいか、ガバナーのご意見をよろしくお願い致します。

織田ガバナー意見

経済先進国が全体としては完全に右肩下がりの中で、ドイツとイタリアのクラブだけはこの10年間も右肩上がりです。国際協議会で聞いたところ、国際ロータリーの言うなりにやっていないとのことでした。そういう運営の仕方が良かったのではないかと思います。

若い会員の増強に関しては、とても大事な事だと思います。国際協議会でちょっとおもしろい話を聞きました。Yジェネレーション(10~28歳)をどうしたら戦力化できるか。オーストラリアのマイケル・マクインという人が、Yジェネレーションは野心的な世代であり、人前で背中をたたいて認めてあげる、プロセスでなく成果を認めてあげる事が大切だと言っていました。自分の事を理解してもらう為に2年間かけるより、相手の事を知ろうと2週間使った方がより多くの友達ができるとカーネギーさんは言っています。私たちはY世代へそういうアプローチをすると良いのではないかと思います。



発表者 米田会員

私は入会して1年半になります。

会員増強の委員長を仰せつかっておりますが、ロータリアンとしてふさわしい人は具体的にどういう人なのか、また、やはり「昼飯を食いにくればいいんだ」という風な誘い方をするのですが、どう拡大すればよいか、経験を積んでおられるガバナーより教えていただけますか。

織田ガバナー意見

すごくシンプルなお質問ですが、むずかしいです。

ガバナー月信に書かせていただいたのですが、例えば二人のシェフがいたとします。二人とも優秀な料理人でそれぞれが独立しました。一人は他店舗展開を図り、他業種にも進出して経営者として成功します。この方は工業的拡大の意志を持った人と言えます。一方もう一人は日がな一日厨房に立って、味を追求して、よりおいしい食事を提供しながら世の中に認められて行きます。この方は農業的持続の意志を持った人と私は呼びます。これまでのロータリーの皆さんは、前者がふさわしい人として紹介しようとしていたのではないかと思います。が、これからは後者の様な人も魅力があるのではないかと思います。協調性のない人はだめだと思います。

ガバナー講評

国際ロータリー第2790地区ガバナー 織田吉郎様

本当にありがとうございました。

こちらのクラブの素晴らしさは、瀧日さんや上村さんという大先輩が非常に自然体で皆さんと接している所だと思います。前途は明るいと思います。

江戸時代に寺子屋は1万5千あったそうで、識字率は武士で100%、男性で70%、女性20%で日本全体では50%だったそうです。開国した時、瓦版を庶民が立ち読みしているのを見て、イギリス人は植民地化をあきらめたそうです。

ロータリーの活動を通じて、もう一度誇り高い日本の文化を作り上げて行きたいと思っております。ありがとうございました。

閉会の言葉

塩毛会長

今日は長時間に渡り、クラブ協議会を開催する事ができまして、ありがとうございました。

いろんな意見に対して、丁寧に関わりやすくご回答いただいた織田ガバナーには非常に感謝したいと思います。ありがとうございました。



織田ガバナーありがとうございました。



小池幹事・織田ガバナー・塩毛会長



飯合ガバナー補佐